東日本大震災

大津波と原子力発電所―人ごとではない私たちも

平成23年3月11日午後2時46分。
東北地方太平洋沖地震が発生し、戦後の日本では最大最悪となる東日本大震災が起こった。地震で発生した十数メートルの大津波が太平洋側の東北・関東地方沿岸のまちを、尊い命を、思い出を飲み込んだ。その津波は、地震で自動停止した福島第一原子力発電所をも襲い、世界を震撼させる最悪の原発事故をも引き起こした。
そして、太平洋側沿岸市町村には大津波警報が発令された。
東海地震という巨大地震に対して、十分な防災力を高めてきた静岡県であるが、今回の大震災により、何もかも見直す必要がでてきた。想定外では済まされない。
「私たちは何ができたのか」「これから何をしなければいけないのか」考えてみる。

宮城県仙台港付近。多くの車両が津波で流され（右）、引いた後には車両や家屋が無残にも線路上を覆う。（左）　写真提供：鈴木達也さん（牧之原区相良地域）

東海地震津波到達予測は5分 自分の命は自分で守る

東北地方太平洋沖地震で発生した津波は、太平洋側の東北・関東地方沿岸地域を襲い、一つのまちが壊滅するなど激甚災害となった。この地震では、強い揺れの約30分後に津波が到達し、犠牲者のほとんどがこの津波に飲み込まれた。
静岡県沿岸地域にもその影響が及んだ。
「午後4時8分、大津波警報」
この警報を受け、牧之原市災害対策本部では市沿岸地域の約3千世帯9千人に避難勧告を発令。同時に各地区へ避難所を開設した。
勧告後、実際に指定された避難所に避難した人は500人程度（約5・5％）であった。少ない。高台や避難地などに避難した人もいると思うが、大半は自宅にいたのではないだろうか。これでは助かる命も助からない。
東海地震では地震発生後5分以内に津波が到達すると予測されている。残酷であるが、まず他人よりもわが身の安全を真っ先に考える必要がある。そして、自分が逃げることができる一番の高台に避難しよう。けがをしては避難はできないし、他人を助けることもできない。
避難するときにも注意が必要。この地震の津波の報道でも明らかであったが、避難車両により主要道路で渋滞が発生してしまう。そうなると逃げることはできない。この大震災でも、避難時に車両ごと津波に巻き込まれた人が多い。
各家庭や自主防災会では一昨年の地震やこの地震を教訓に、安全な場所と避難経路の確認、訓練内容を再度検討してもらいたい。

津波防止の追加対策は必須 陸閘管理も見直しが急務

東海地震での津波の高さは▽地頭方7・2メートル▽相良港5・8メートル▽勝間田川河口4・7メートル―と想定されている。
現在、市海岸線15キロメートルにはその津波の高さ以上の堤防が築かれている。また河口などの開口部では、地震を感知して自動的に閉鎖する水門や陸閘（津波を防ぐ鉄製の扉）により侵入を食い止める対策が図られている。
とは言うものの、東北地方を襲った想定外の大津波の恐怖を考えれば追加対策は必須であることは言うまでもない。
また今後、陸閘の管理方法も重要課題となる。
相良地域の陸閘は相良庁舎から遠隔操作で開閉ができる。一方、榛原地域の陸閘は電動ではあるものの、その場に行かないと操作ができない。よって、現在は地元自治会に開閉作業を委託している。しかし、津波が押し寄せる状況で閉門作業に行く人はいない。
早急に陸閘の管理や在り方を見直しをしなくてはならない。常に陸閘を閉めて、必要があるときだけ開くような極端な管理も見据えていかなければならないだろう。
また市では、海岸線や河川の管理者である県に対して、今以上の津波対策を強く要望をしていきたいと考えている。

市からの避難指示は限界が

突発的な地震や津波などの自然災害には、行政からの避難指示などには限界がある。各個人や自主防災会、事業所が、日ごろから特に津波を十分に考慮した対策や訓練をする必要がある。夜間の避難経路と避難時間を調べておくことも大切である。

地震だ！津波だ！すぐ避難

1. **わが身の安全を真っ先に考える**
   自分がけがをしては避難も救助もできない
2. **とりあえずの高台までの避難とより高いところへの避難をする**
   過去の浸水地域や想定津波危険地区だけを過信しないで、より高く安全な場所にも避難できるような心構えが必要
3. **車による避難の原則禁止**
   ちょっとした原因で車は渋滞し、津波に巻き込まれる危険性が高い。この大震災では避難車両で道が渋滞し、多くが津波に巻き込まれた
4. **財産の持ち出しはあきらめる**
   貴重品といった財産を取りに戻って津波に巻き込まれることがある。数分の差が命に関わってくる
5. **津波が浸水を始めたら、遠くへの避難をあきらめ、近くの高い場所へ**
   浸水している中では、漂流物にぶつかるなど転倒する危険が大きく、避難できなくなる。50センチ程度の津波に巻き込まれて死亡する場合もある
6. **岩場や堤防などの堅い物からできるだけ離れる**
   津波に飲み込まれた場合、死因の多くは岩やコンクリートといった堅い物にたたきつけられて気絶したり、負傷したりして水死することが多い
7. **やむを得ず建物に避難する場合は、海岸に面する建物を避け、2列目、3列目の建物に避難**
   海岸の全面よりも、影になる場所でエネルギーを少しでも逃れることが最善策

東北地方太平洋沖地震

発生日	平成23年（2011年）3月11日
発生時刻	午後2時46分
震央	日本三陸沖 北緯37度49分0秒　東経143度3分0秒
震源の深さ	10㎞
規模	マグニチュード9.0
最大震度	震度7：宮城県栗原市
地震の種類	海溝型地震、逆断層型

人的被害
死者　12,554人
行方不明者　15,077人
負傷者　2,866人

建物被害
全壊　45,973戸　半壊　9,760戸
流失　6戸

避難状況
2,330避難所　160,625人

＊被害状況は
平成23年4月6日午後8時現在、警視庁発表

静岡新聞　3月12日朝夕刊、3月13日朝刊、3月14日朝夕刊、3月16日朝刊、3月17日朝刊掲載